

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

「中国雲南におけるテキスト研究の新展開」

(2015 年度第 1 回研究会)

日時：2015 年 5 月 23 日（土） 13:00-18:00

場所：AA 研マルチメディアセミナー室（304）

概要報告

2015 年度第一回の例会として開催された本会では、代表者の山田による趣旨説明と、2 題の研究報告がおこなわれた。参加者は 16 名（共同研究員 14 名、AA 研所員 2 名）であった。

(1) 山田敦士（AA 研共同研究員／日本医療大学）「趣旨説明」

共同利用・共同研究課題審査会で用いたプレゼン資料をもとに、課題の目的・意義・期待される成果等についての説明がおこなわれた。引き続き、メンバーによる自己紹介がおこなわれ、プロジェクトにおけるそれぞれの役割の確認がなされた。

(2) 山田敦士（同上）「ワ族におけるテキストとリテラシー」

本年度の活動では、雲南におけるテキスト現状を共有することをその目標の一つとしている。代表者の山田は、民族言語学の立場から、雲南省内に居住するワ族の事例について、19 世紀後半以降に導入された 5 種類の文字表記（3 種類のローマ字表記、タイ系文字、漢字）のリテラシー状況、および無文字社会における他者記録の活用可能性について研究報告をおこなった。

報告に対し、タイ系文字（タム文字）の使用状況とメコン文化圏との相関について、また文字と集団のアイデンティティの関係性について議論がおこなわれた。そのほか、1950 年代以降に編まれた「社会歴史調査報告」の版本を題材に、テキストの個別的側面に関する議論がおこなわれた。

(3) 新谷忠彦（AA 研共同研究員／AA 研フェロー）「タイ文化圏研究の顛末」

本プロジェクトは「タイ文化圏」研究の構想を引き継ぎつつ、テキスト学という新たな視点を導入し、その研究の深化を図るというものでもある。報告者の新谷は「タ

イ文化圏」の提唱者であり、当該地域におけ40年の調査経験をもつ。報告では、これまでの調査研究より得られた地域の歴史動態に関する知見が総括され、さらに今後の調査研究の在り方についての提言がなされた。

報告後、東南アジアにおける「古いもの」に対する価値観という、本プロジェクトの本質に関わる議論がおこなわれた。また音声データのデジタル化に関わる作業など、資料の乏しい言語文化に対するアプローチの在り方についても討議がおこなわれた。

(文責：山田敦士)